

# やまぐちのまちで育む ふるさを 愛し 豊かな心と健やかな体で 未来を生きぬく子ども

地域の  
特色ある  
活動

山口県山口市教育委員会

## 1 はじめに

山口市は、令和2年国勢調査において人口193,966人、面積約1,023.23km<sup>2</sup>、本州西端にある山口県のほぼ中央に位置する県庁所在都市です。緑豊かな山並みに囲まれ、大内文化の香りと明治維新の策源地として多くの遺跡や史跡があり、歴史と文化に彩られたまちとして発展してきました。

また、広域交通網が東西南北に走り、県内の主要な都市に1時間で移動でき、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった高速交通網との接続の便もよく、広域交流拠点としての優位性を有しています。

## 2 本市の教育

本市では「第二次山口市教育振興基本計画」において、教育目標を「やまぐちのまちで育む ふるさを愛し 豊かな心と健やかな体で 未来を生きぬく子ども」とし教育施策を展開しております。今回は本市の特色ある活動の中から、主にコミュニティ・スクール（以下「CS」と言う。）の取組の一端と、ICTを活用した教育について紹介いたします。

## 3 CSを核とした「地域とともにある学校づくり」

本市では、全国的にも早い段階からCSと地域協育ネットを一体とした学校運営を進めてきており、教育委員会の支援体制のもと、平成22年から各学校において取組をスタートいたしました。

まず、教育委員会の支援体制といたしまし

て、平成28年には各学校におけるCSと地域協育ネットの一体的な運営を支援するため「地域連携推進室」を設置したほか、平成31年には市独自のCSアドバイザーを教育委員会に配置しました。また、各市立小・中学校において、学校・家庭・地域の連携・協働を進めるための「学校・地域連携カリキュラム」や、各学校のCSの取組等を家庭や地域に説明するための「学校プレゼン資料」の作成をサポートしてきたところです。こうした体制のもと、学校運営協議会等での熟議は成熟してきており、近年では児童・生徒も参画し、学校運営協議会委員や保護者・地域の方々と議論したり、ファシリテーターとなって議論の調整を行ったりするなど、児童・生徒の当事者意識も芽生えてきています。



【生徒が参加する熟議の様子】

そこで、今年度は現在取り組んでいるCSの取組の成果や課題を可視化するため、文部科学省の実証研究に全国の先進自治体とともに参加しました。その結果、本市の学校運営協議会の運営状況は、他の自治体と比較して高い数値を示していたほか、児童・生徒の規範意識や思いやりの心、ふるさとの誇りや愛着心が醸成されてきていることが明らかになりました。さらには、保護者や地域の方々の学校への信頼や期待が、他の自治体よりも高い結果が看取できるなど、CSを核とした地域とともにある学校づくりの土壌が確立されつつあると感じているところです。「地域とともにある学校づくり」が求められ

ている中で、今後も本市のCSの取組を一層加速化させたいと考えています。

#### 4 本市ならではのICTを活用した教育

全国的にもICTを活用した教育の推進が課題となる中、本市におきましては、コンピュータや通信技術、映像などのメディア・テクノロジーを活用した数多くのアート作品を創作し、国内外に発表している「山口情報芸術センター」(YCAM)と連携したプロジェクト事業「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」を、今年度から新たに展開しております。

このプロジェクトは、山口情報芸術センターの教育プログラムを活用し、児童・生徒の情報の収集力、伝達・発信力、プログラミング的思考力、さらには情報モラルを含めた情報活用能力等を育むほか、教員のICT活用スキルを伸ばすことを目的としています。

児童・生徒を対象とした事業として、今年度は市内小・中学校2校をモデル



【小学校での活動の様子】

校に設定しました。小学校では、児童の住む地域について端末で調べ、発見したことを手作りのウェブ図鑑にまとめる活動を行いました。360°カメラやドローンで撮影した画像と、児童が自ら取材した情報を整理し、その情報をインターネット上で世界に発信したところです。中学校では、プログラミング的な思考や技術を模擬的に体感することを目的に、生徒が主体となってICTを活用したオリジナルスポーツを考案しました。授業の過程において、ルール作りや競技形態などについて仲間と議論や実験を繰り返し、体育祭の中で生徒が考案した新しい競技を保護者や地域の方々に披露することができました。これらの取組を通して、児童・生徒の「自己肯定感の向上」にもつながったように思われます。

その他、教員を対象とした事業としては、センターの職員を講師に、学校での授業と同じ環境設定のクロームブック及びグーグルが

提供するクラウドサービス等を利用し、授業での活用も見据えた情報の収集、整理・分析、編集や発表等の演習を行うなど、市立小・中学校教員の指導力向上を目的とした研修講座を実施したところです。

いずれもICTを単に活用するだけでなく、機器を活用しながら、どのように情報を整理し、発信・伝達するのかを、児童・生徒たちは楽しみながら学び、教員も主体的に研修に取り組み、個々のスキルアップにつなげていました。今後も本市の強みの一つであるセンターと連携した本取組を、さらに発展させていく予定です。

#### 5 今後について～本市のめざす小・中一貫教育～

全国的にも小・中一貫教育を導入する自治体が増えてきている中で、本市においても、小中連携から、さらに一歩前進させ、9年間の学びを滑らかにしていく「小・中一貫教育」の必要性を感じています。

本市では、これまで中学校区ごとに、15歳までに育みたい子ども像を共有し具現化するための「学校・地域連携カリキュラム」の作成に取り組むなど、中学校区を一つのまとまりとした連携関係がすでに構築されてきています。これから「小・中一貫教育」を進める上で、これまでの地域や家庭との連携・協働をバックボーンとした、本市ならではの「CSを基盤とした小・中一貫教育」を進めていきたいと考えております。

本市で生まれ育った子どもたちが、「山口で学んで良かった。山口に住んで良かった。これからも山口に住み続けたい」と感じてもらえるよう、本市総合計画に掲げる「教育なら山口」の教育施策に積極的に取り組んでまいる所存です。



教育長  
藤本 孝治